

<調査対象>(全数調査)

公民館、図書館、博物館、社会体育施設(一般の利用に供する目的で、地方公共団体が設置した体育館や水泳プール等のスポーツ施設)、文化会館 など

※被災地(岩手県、宮城県、福島県)については、博物館の入場者数や図書館の図書貸出数などの活動状況は調査対象外としたが、施設数や職員数などの現状の把握は3県を含めて調査対象とした。

<調査内容>

(1)社会教育行政組織

- ・社会教育関係職員に関する事項
- ・社会教育関連事業の実施状況

(2)公民館等の施設

- ・設置者及び管理者に関する事項
- ・施設の利用状況 等

<調査時期>

調査周期:3年

調査の時期:平成23年10月1日現在

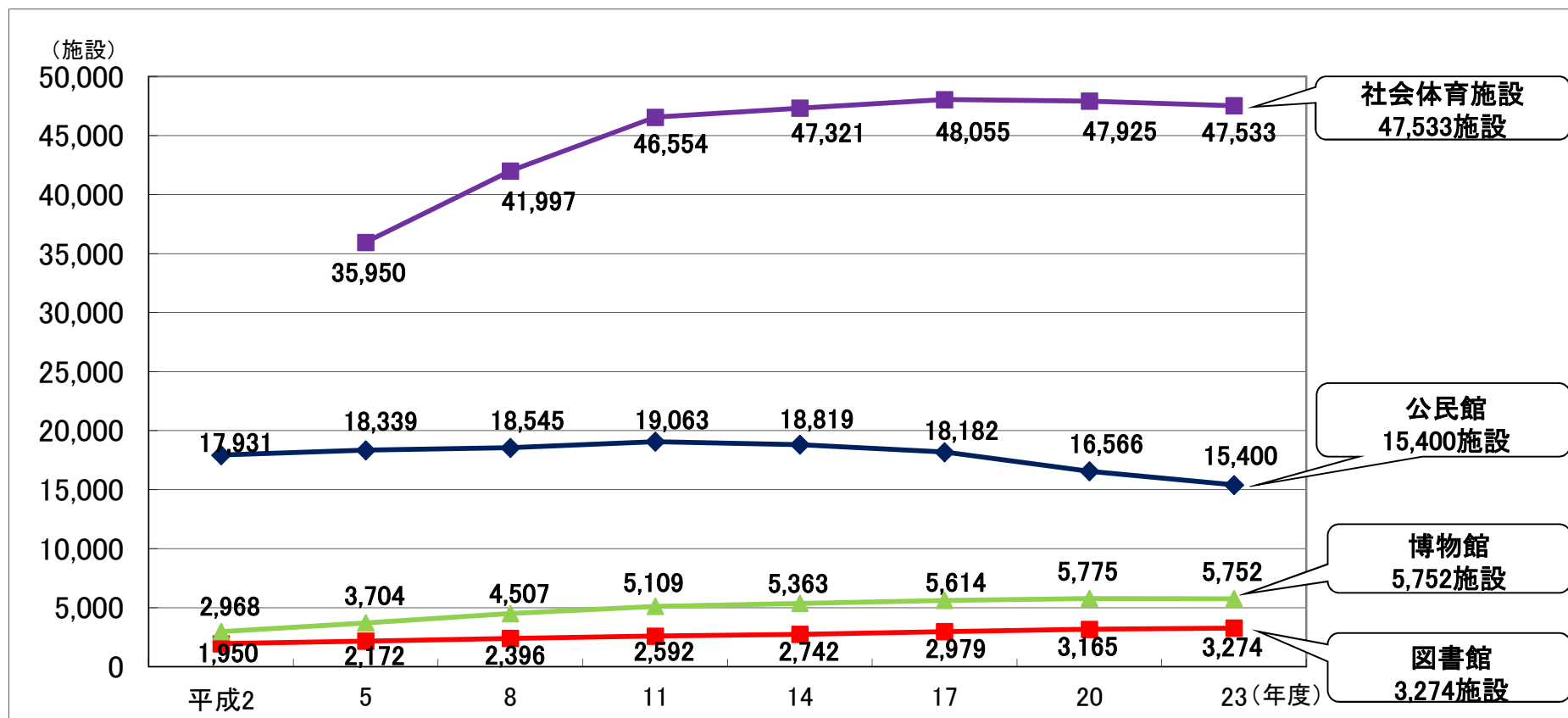
活動状況は平成22年度間

<公表時期>

・中間報告値 平成24年10月31日

・確定値 平成25年3月

<施設数の推移>

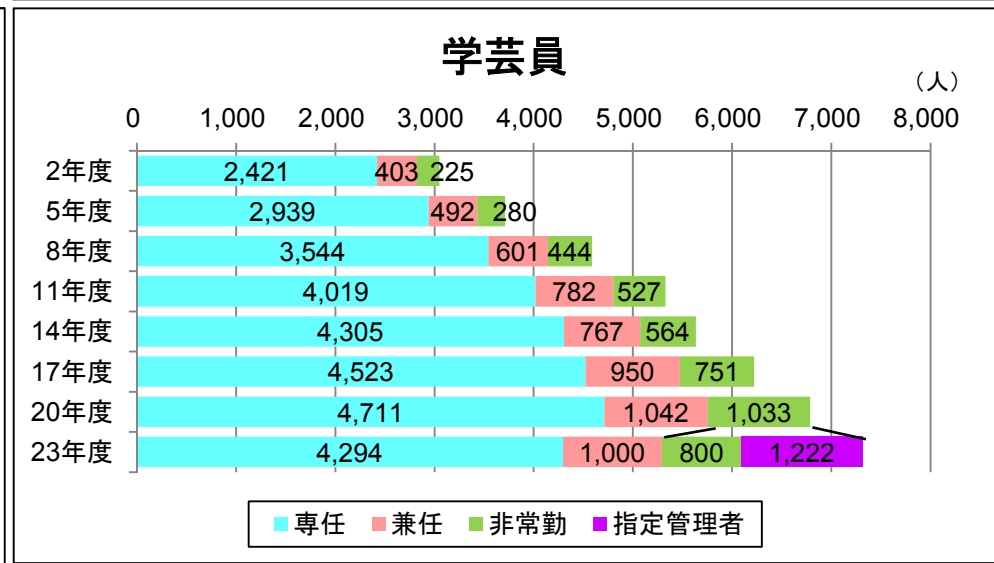
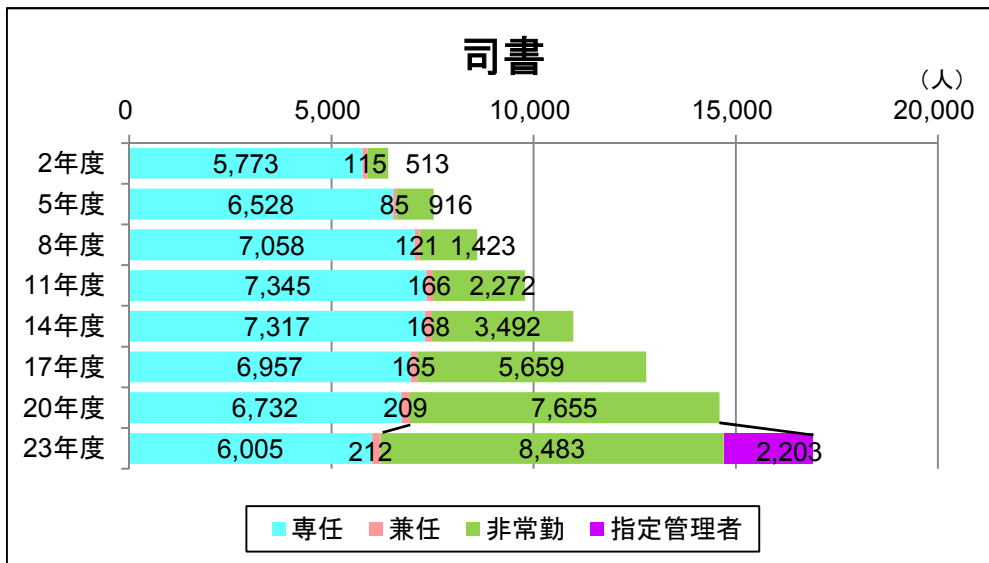
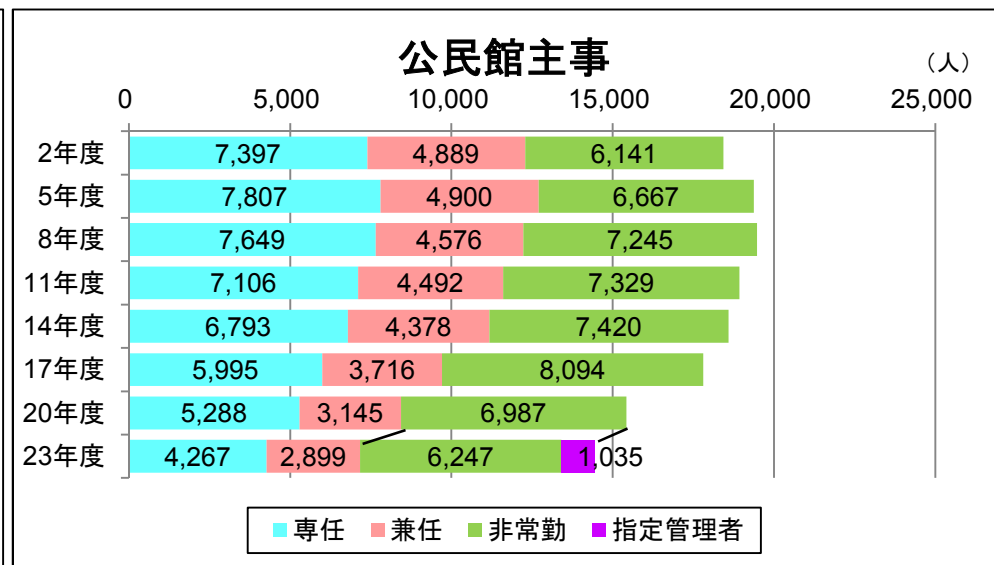
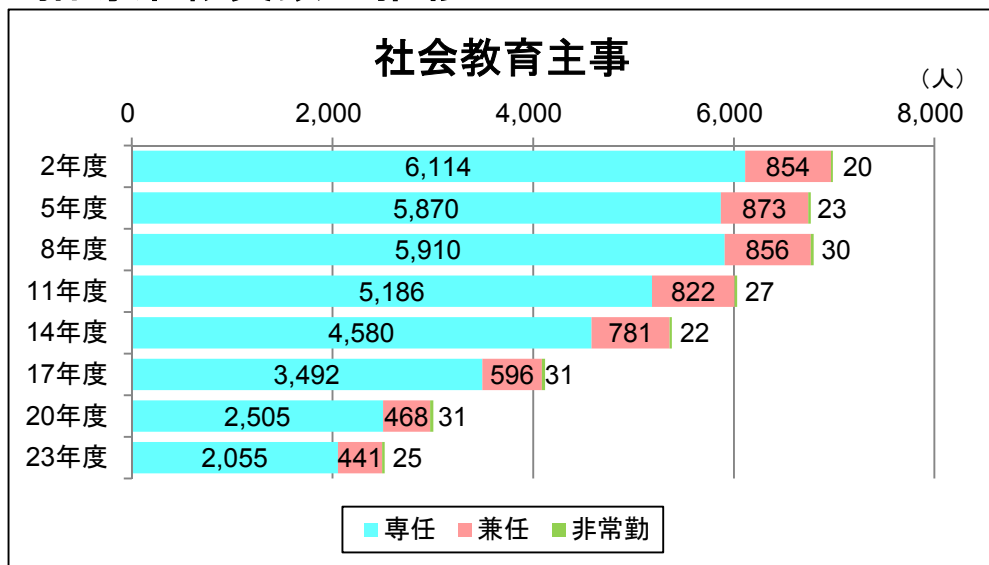


▶ 公民館数は、平成11年度以降減少傾向。図書館は過去最高。他の施設は横ばい。
 公民館の減少の要因については、コミュニティ・センター等の施設としての転用、施設の老朽化や市町村合併に伴う廃止・整理統合が考えられる。

中間とりまとめ 関連項目

- ・生涯学習社会の構築に向けた寄与（社会教育施設の設置、多様な学習機会の提供）
- ・学びの場を核にした地域コミュニティ形成の推進（社会教育施設を核にした取組の支援、学校と社会教育施設等の複合化）
- ・現代的・社会的課題に対応した学習の推進（先進的な取組を行う公民館等への支援）
- ・様々な主体との連携・協働を進めるための社会教育行政の体制の確立
- ・社会教育施設の運営の質の向上

<指導系職員数の推移>

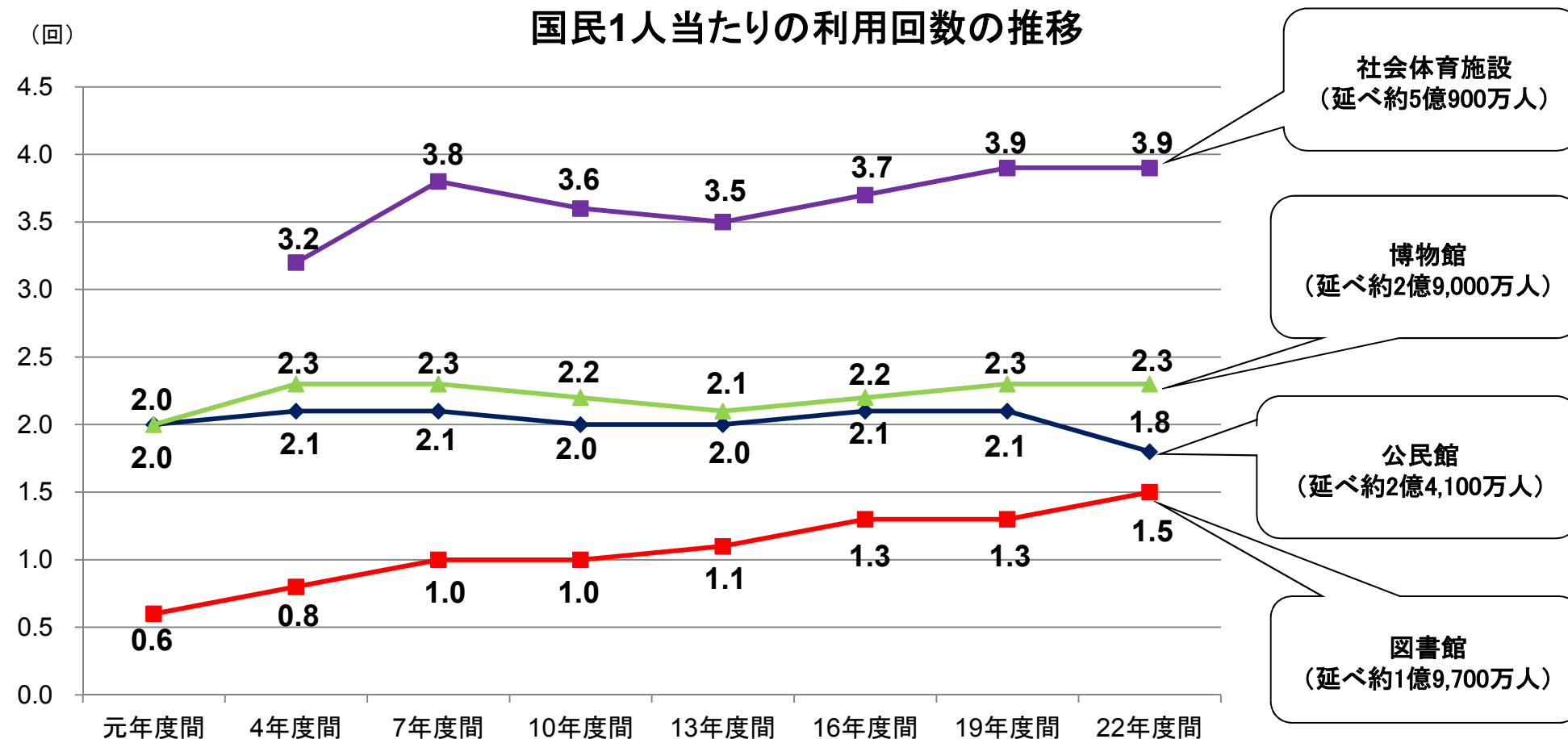


➡ 社会教育主事、公民館主事は減少している。一方、司書、学芸員は増加している。

中間とりまとめ
関連項目

・地域の学びを支える人材の育成・活用の推進 等

<国民1人当たりの年間利用回数の推移>

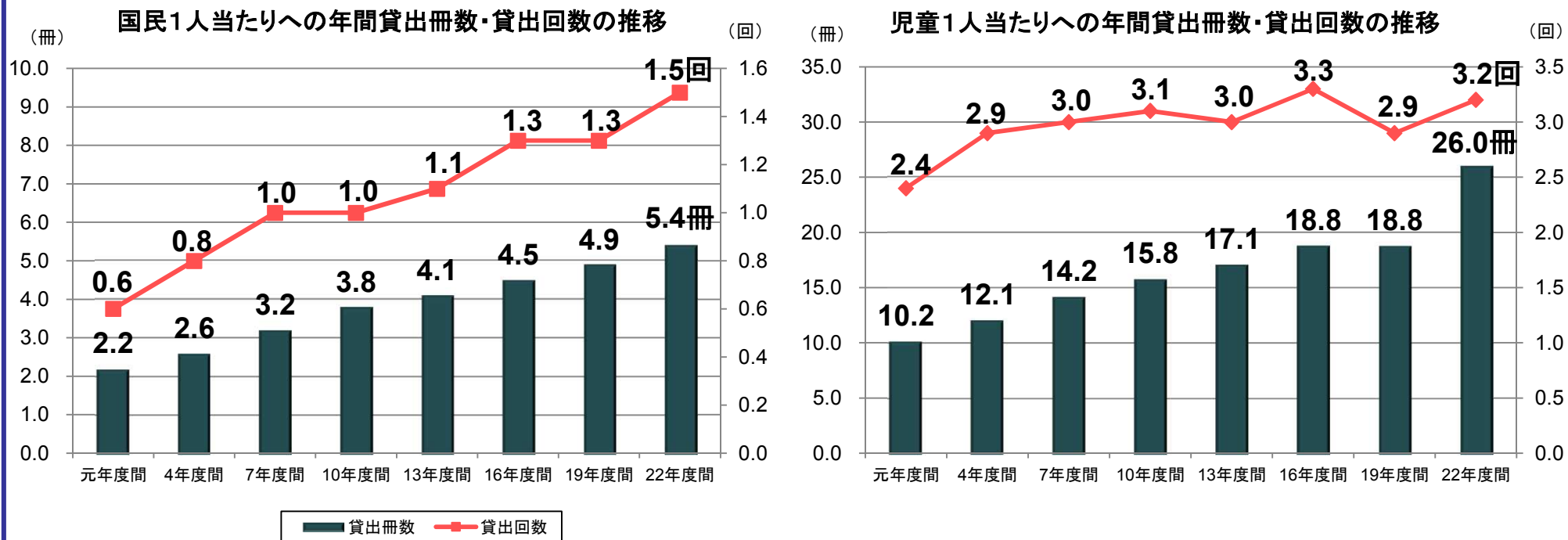


➡ 図書館の貸出回数は増加傾向が続いている。公民館の利用回数はやや減少した。

中間とりまとめ
関連項目

- ・生涯学習社会の構築に向けた寄与(社会教育施設の設置、多様な学習機会の提供)
- ・学びの場を核にした地域コミュニティ形成の推進(社会教育施設を核にした取組の支援、学校と社会教育施設等の複合化)
- ・現代的・社会的課題に対応した学習の推進(先進的な取組を行う公民館等への支援)
- ・様々な主体との連携・協働を進めるための社会教育行政の体制の確立
- ・社会教育施設の運営の質の向上

<図書館の国民・児童1人当たりへの年間貸出冊数・貸出回数>



➡ 国民1人当たり、児童1人当たりへの年間貸出冊数・貸出回数は、年々増加している。
貸出冊数の増加の要因としては、有職者が利用しやすいように開館時間を延長するなどのサービスの向上や社会全体が高齢化してきていることが考えられる。

(※) 児童1人当たりの図書の貸出冊数については、「児童の貸出冊数」から「児童用図書の貸出冊数」に調査項目の定義の変更を行った。

中間とりまとめ 関連項目

- ・生涯学習社会の構築に向けた寄与(社会教育施設の設置、多様な学習機会の提供)
- ・学びの場を核にした地域コミュニティ形成の推進(社会教育施設を核にした取組の支援、学校と社会教育施設等の複合化)
- ・様々な主体との連携・協働を進めるための社会教育行政の体制の確立
- ・社会教育施設の運営の質の向上